

2019年度 外国語活動実践・研究計画

部 員	○藤田 峻, 佐々木絵理子
-----	---------------

研究テーマ
**仲間や言語に積極的に関わり、
 コミュニケーションの楽しさを味わえる子どもを育む学び**

1 研究テーマについて

子どもたちが外国語を用いたコミュニケーション能力が高まったと感じたり、成就感を味わったりすることができるのはどんなときなのだろうか。それは「相手の言っていることが分かった」「自分が伝えたいことを伝えることができた」という喜びを感じ、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることが楽しいと思えたときではないだろうか。このことから外国語活動部では「コミュニケーションの楽しさを味わえる子ども」をコミュニケーション能力を高めることのできた子どもの姿と捉える。

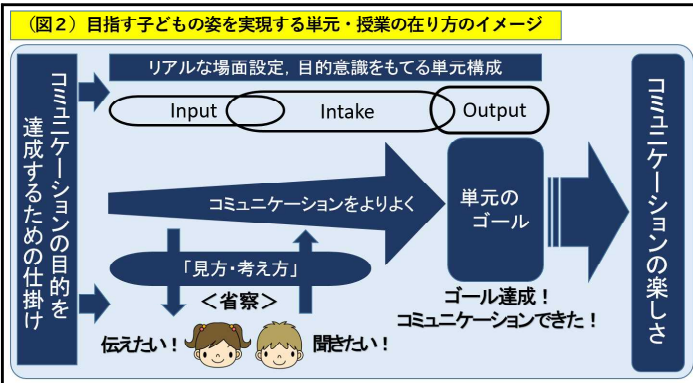
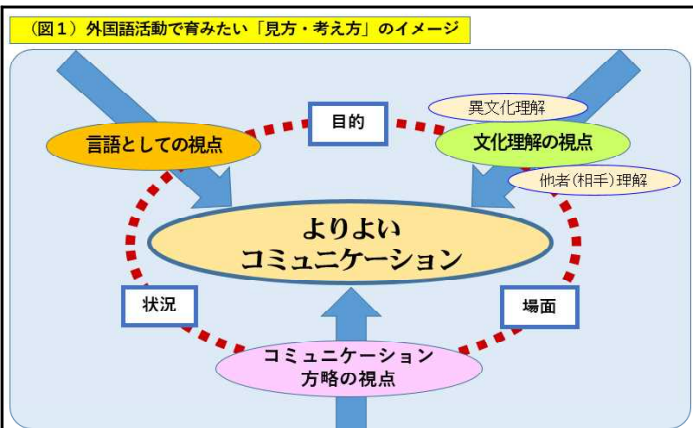
こうした特質を踏まえ、外国語活動部では研究主題の「自律した学習者」を、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを味わえるようになるために、必要な英語表現・語彙や文化、コミュニケーション方略等について自ら考え気付いていく子どもと捉えた。また、研究副題の「学びをつなぐ」とは、積み重ねた語句や表現、文化理解、コミュニケーション方略等を用いた実際のコミュニケーションにおける気付きを、自らのコミュニケーション手段として汎用的に生かしていくことと捉えている。

そのために、外国語活動で育みたい「見方・考え方」を(図1)のようにイメージしている。コミュニケーションを楽しむためには、「よりよいコミュニケーション」ができることが必要である。人と人がコミュニケーションを図っていくためには、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じ、「どこ出身の人かな」「どんな人かな」といった「文化理解(相手理解・異文化理解)の視点」、「どんな言葉で伝えたらいいのかな」という「言語としての視点」、「分かりやすい伝え方はないかな」といった「コミュニケーション方略としての視点」の3つの視点から考える必要があると考える。

このような視点で学習活動を整理した上で、コミュニケーションへの意欲の喚起、コミュニケーションを支える言語への慣れ親しみ・定着を促すことが必要ではないかと考える。子どもたちが意欲をもって活動に向かうためには、授業の中で目的意識をもたせることが大切である。そのために、「単元のゴール」を設定し、英語表現

に必要な基本表現・語彙への慣れ親しみをより確かなものとしていく。また、ゴールに向かう中で、相手の発する外国語を注意深く聞いて、何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識などを総動員して、他者に外国語で自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を、必要感があるコミュニケーションの中で大切にしていく。そして、新たなコミュニケーション方略や語句や表現への気付きへと展開させていく(図2)。

以上のことを踏まえ、研究1年目は単元構成の中で子どもたちが見通しをもったり英語を必要と感じたりできるような仕掛けの工夫をし、成果を上げてきた。これらの中でも省察の場面はあったのだが、研究2年目の今回は、子どもたちが仲間とコミュニケーションをする中で省察に主眼を置いて研究していく。コミュニケーションを図りなが



らの省察は空中を飛び交う生きた英語を見つめ直しながら、自分の表現したいことに活用していくことが求められ、たいへん難しい課題とも言える。しかし、言語発達の過程から考えてみてもそれが一般的であり、聞こえてきた英語、目にした表現方法、言ってみて気付いたことなど、子どもたちがよりよいコミュニケーションへの「見方・考え方」を自覚して省察に生かす姿に注目していきたい。ここで見られる姿の先にコミュニケーションの楽しさ、すなわち「伝わった」「分かった」喜びにつながると考え、本研究主題を継続する。このような考えから、本校外国語活動部では「コミュニケーション」しながら言語・非言語を駆使して他者と「対話」していく中で楽しさを味わってほしいと願っている。

外国語活動で目指す「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」は次のようなものである。

単元のゴールに向けた見通しをもち、よりよいコミュニケーションのために必要とする「見方・考え方」を通じた気付きを、他者との関わりによって省察し、コミュニケーションを楽しめる子どもの姿

2 研究の重点

(1) 子ども自身が「よりよいコミュニケーション」に向けての気付きを実感できる授業づくりの工夫

外国語活動における「見方・考え方」（言語としての視点、文化理解の視点、コミュニケーション方略の視点）を働かせてよりよいコミュニケーションにつなげられる表現や方法について、子ども自身が気付いたり必要感をもったりできるような仕掛けを行い、意識付けを図る。特に、授業の後半や単元終末で行うコミュニケーション活動の中で、タブレット端末の録画機能を活用することで、現在の自分のやり取りや発表がどのくらいできるかを子ども自身が認知できるようにし、効果的な省察の在り方を検討していく。また、留学生との交流やスカイプ（ビデオ通話）による他者との関わりがある場面を単元の中に意図的に設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を子どもが常に意識できる授業づくりの工夫をしていく。

(2) 子どもが目的意識をもって取り組める単元構成と、魅力ある授業づくりの工夫

子どもが目的意識や英語を学ぶ必要感をもって取り組んでいくための仕掛けとして「単元のゴール」を設定し、単元構成・授業づくりの実践と検証を重ねていく。

また、子どもが言語を聞く中で自然に慣れ親しんだりその仕組に気付いたりできるようにインプット（言語に触れる・反復する）の仕方を研究し、インテイク（言語を自分のものとして理解・蓄積する）、アウトプット（言語を用いて実際に表現する）といった段階を子どもたちも意識できるように学習活動を設定していく。主に、インプットの場となる導入では、英語の絵本を活用した授業の在り方を検討していく。また、他の教科等で子どもが学習したことを言語活動で扱う題材にした外国語指導法である、CLIL（内容言語統合型学習）を取り入れた授業実践を研究していく。

3 研究・研修計画

時期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動部会 ・ 附属中学校公開研究協議会 (5/31) ・ 附属小学校公開研究協議会 (6/7) 提案授業 6 A：藤田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究計画の立案 ・ 授業づくり，授業力向上 ・ 授業を通して重点事項の検証
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究パンフレット執筆 ・ 大学との共同研究 ・ 東北附連研究集会 (10/31) 提案授業 5 A：佐々木（絵）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究のまとめ ・ 実践・研究計画の修正 ・ 授業づくり，授業力向上
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動部会 ・ 大学との共同研究 ・ 外国語活動教材や教具の作成・整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究計画の立案